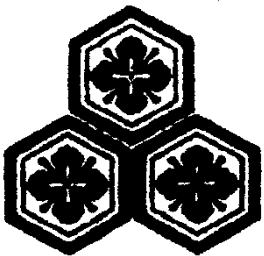


巖島神社の神紋

家に家紋があるように、寺院に寺紋があり神社に神紋があるそうです。家紋がその家の象徴であるように神紋はその神社の象徴と言えます。紋章は何かを図案化した記号で何らかの意味を表すしるしとして発展してきたそうです。神紋も数多くの模様がありいろいろな由来がありますが、発生的には家紋に影響されてだんだん定着してきたようです。

小袋谷の鎮守、巖島神社にも神紋があります。それは「三つ盛亀甲に剣花角」という紋で、広島の巖島神社の神紋と同じです。三つ盛亀甲に剣花角という紋は二重の六角形の亀甲紋の中に四枚の花びらと四本の剣の剣花角紋が描かれている模様で下に二つ並びその上に一つ乗っている形に配置されている紋です。



剣花角は花角紋の一種で、花角紋も亀甲紋も大陸伝来の模様だそうです。花角は花菱紋と同じく中国で創られた唐花という架空の花の模様から発展した紋だそうです。亀甲の形は世界各地で見ることができ特に古代中国では亀甲で占いが行われたり、亀に蛇が結び付いた形の玄武は北方の守護神として崇められたり、また鶴と共に長寿の象徴として瑞祥的動物とされています。亀甲山に亀甲紋、通ずるものがあるのかもしれませんが。